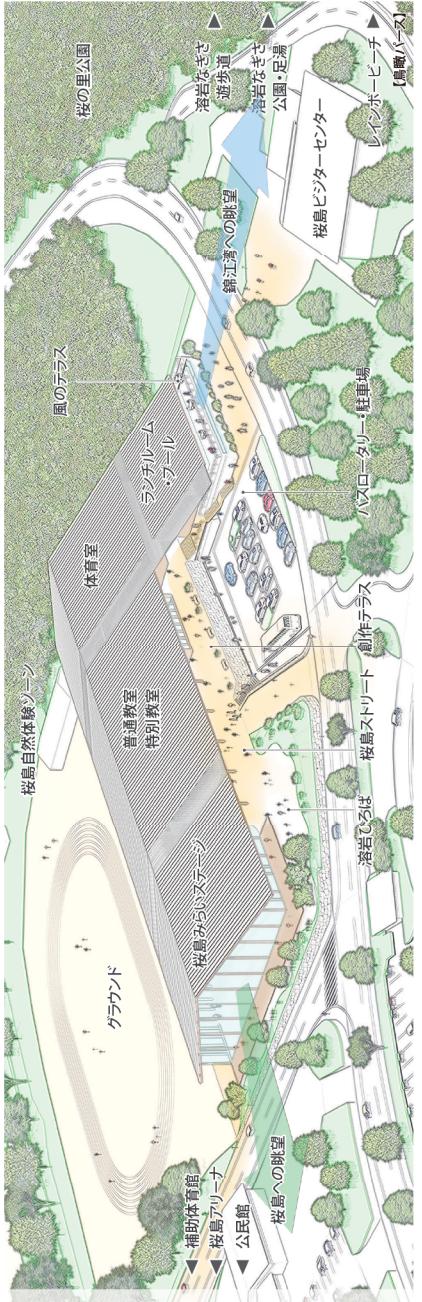


## ひと・もの・歴史・文化・コミュニティを守り、「ひとつつの桜島」を未来へつなげる「みんなのたまり場」をつくります。

特に積極的に取り組む  
SDGs目標



### 1 多世代の人人が集まり・活動する「たまり場」

- 目的をもつて集まるる場所づくり
- 多世代の人が交流する場所つくりのため、その目的や活動を明確にして、その機能を整理・配置します。そのうちの中心的機能の1つが学校であると位置づけた計画を行います。

「みんなのたまり場」ではそれぞれの目的で達成できる空間が重なり合って、活動が相互に見える空間をつくり、新たな出会いや興味・関心を促す交流の観点をつくります。

- 周辺施設機能との連携

・敷地周辺にある様々な施設との連携を図ることで、利便性や活動の幅を広げます。その象徴として、敷地北側から施設内を通じ南側に接する「桜島ストリート」を設け、人々を施設内導くとともに、周辺施設へ誘つ計画とします。

- 魅力発信のシンボルとなる建物へ

・「みんなのたまり場」は敷地北側に寄せて配置するとともに、ビジターセンターや溶岩なぎさ公園を訪れた観光客の目的にとまるような配置とすることで、新たな桜島のシンボルとなり、桜島の外へ桜島の魅力を発信する場所になります。

- 桜島がひとつになる場所づくり

・「みんなのたまり場」で展開される活動や利活用した旧校舎との連携などにより、桜島のひと・もの・歴史・文化が継承され、また、「ひとつの桜島」の魅力が新たに建築とともに発信されることで、外から新たな仲間を引き寄せ、桜島の維持・さらなる発展につながることを期待します。

### 2 みんなを包み込む大きな「ひとつの屋根」

- 屋根の下で交流が広がる環境づくり
- 敷地全体に利用者や活動を包み込む大きなひとつの屋根をむけます。

この屋根の下で展開されるしやくさい環境をつくり、屋内だけにとどまらず、屋外に連続した活動が展開できる環境を実現します。

- 健康づくりに寄与する建物

・大きな屋根はそこで過ぐす人に安らぎや安心感を与えて、のびのびとした活動ができるようならかな屋根形状とします。

- 桜島の気候・風土に配慮した屋根デザイン

・大きな屋根はシンプルな切妻屋根とします。周囲の建物との調和を図るとともに、建物ボリュームを抑える、圧迫感を与えないことで自然公園の景観形成に寄与します。

- 周辺施設設備との連携

・谷をつくらない切妻屋根は灰が溜まらないため、メンテナンスも容易です。

- 周辺施設との円滑な移動をサポートする屋根

・大きな屋根の軒先を日差しや雨を避けることのできるバス待合スペースとして利用し、子どもたちの通学や住民・観光客のバス利用の利便性を高めます。

### 3 みんなが留まりたくなる「木の空間」

- 自然を感じる・考える木造建築
- 桜島という大自然を感じられる場所からこそ、地球環境に配慮した木造建築がふさわしいと考えます。

木造建築と木をふんだんに活用した内外装計画により、人々がずっとここにいたい、何度も訪ねたいと感じる心地のよい空間づくりを行います。

- 健康づくりに寄与する建物

・木造建築と木をふんだんに活用した内外装計画により、人々がずっとここにいたい、何度も訪ねたいと感じる心地のよい空間づくりを行います。

- 持続可能な未来を考えるきっかけとなる建物

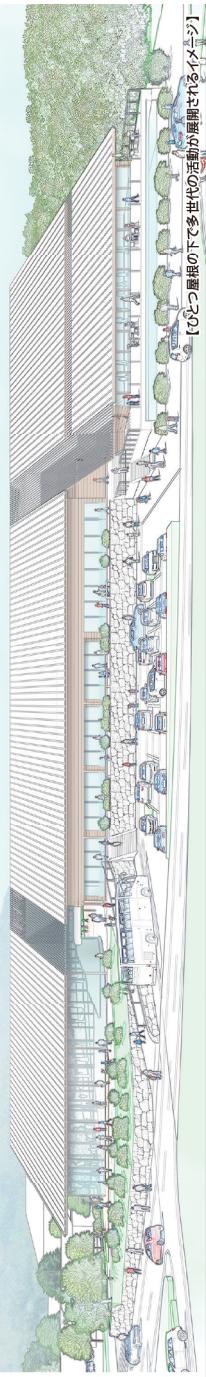
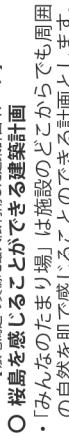
・木材を積極的に活用することで、木の調湿効果による夏の高湿化と冬の乾燥を防ぎ、インフルエンザなどの感染症の罹患率の低減など、健康づくりに寄与する計画とします。

- 周辺施設設備との連携

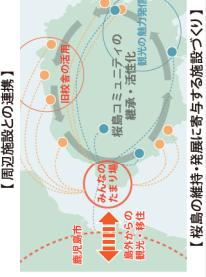
・木材の活用は建築資材の製造に関わることで、森林資源の管理につながります。木造建築は人と地球にやさしい環境を實現し、木造建物を通じて子どもたちに持続可能な社会を考えるきっかけをつくることができます。

### 4 桜島を感じる「つながる施設」

- 桜島の自然・施設・資源を意識した配置計画
- 「みんなのたまり場」の施設配置は自然環境・周辺施設・観光資源など、桜島の魅力を効果的に活用できる配置とします。



【桜島の維持・快適に寄与する施設づくり】



【ひとつ屋根の下で多世代の活動が展開されるイメージ】

## 子どもだけではなく多世代の人々が集い、共に学び、語らい、育ち合う場づくり。

### 1 子どもたちと地域の日常的な交流を生み出す配置

アプローチ・高低差・眺望などを配慮した配置計画



#### ○ 高低差を活かした施設アプローチ

- ・高低差のある敷地の下段に駐車場を設け、明確な歩車分離を行い、校舎へとつながる安全で分かりやすいアプローチをつくりります。
- ・既存のスロープからつながる道を形成

- ・既存のスロープを利用し、駅地北側からのアプローチを校舎や桜島アリーナ、補助体育館、公民館までを「桜島ストリート」でつなげることで、子どもたちの日常的な動線の確保と地域の人々が訪れるやすい道をつくりります。
- 桜島アスロープからつながる道を形成
- ・敷地の高い位置に「桜島みらいステージ」からは火山学習を行なないながら桜島を望むことができます。

### 2 子どもにとって使いやすさが住民にとって使いやすさにつながる施設構成

#### ○ 「桜島みらいステージ」を設置

- ・吹抜空き空間を中心回遊性があり、普通教室や特別教室、音楽室、保健室など、学校生活全般で利用可能な部屋を南北に配置して、南北に部屋を配置して明快な構成とし、子どもたちや授業者に分かりやすく、暮らしやすい環境を提供します。
- 桜島と鶴江湾を望む施設配置
- ・敷地の高い位置に建物を配置することで、校舎からは桜島と鶴江湾を望むことができます。

#### ○ 大きなひとつ屋根下の分かりやすい施設構成

#### ○ 「桜島みらいステージ」を設置

- ・吹抜空き空間を中心回遊性があり、普通教室や特別教室、音楽室、保健室など、学校生活全般で利用可能な部屋を南北に配置して、南北に部屋を配置して明快な構成とし、子どもたちや授業者に分かりやすく、暮らしやすい環境を提供します。
- 桜島と鶴江湾を望む施設配置
- ・敷地の高い位置に建物を配置することで、校舎からは桜島と鶴江湾を望むことができます。

### 3 新しい時代の学びを実現する柔軟で創造的な空間づくり

#### ○ 主体的・対話的で深い学びの環境づくり

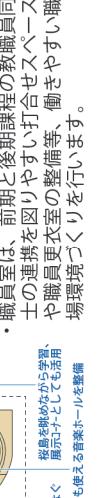
- ・普通教室は、地域のへたりと触れ合う場、学校図書館や火山学習センター、郷土資料ベースを、「桜島みらいステージ」として集約し、学校図書から桜島資料まで全てが溝つかれた情報源と交流の場として構成とします。
- 桜島と鶴江湾を望む施設配置
- ・敷地の高い位置に「桜島みらいステージ」からは火山学習を行なないながら桜島を望むことができます。

#### 時代と教育環境の変化へのフレキシビリティ

- ・普通教室ゾーンは、吹抜けを中心とした一室的なゾーンを形成することで、3-2-2-2型や4-3-2型等の教育課程のクラススターに対応できます。
- ・学校生活の拠点となる普通教室（CR・オーブンスペース（OS））は、より柔軟な設えを計画できる構成とします。教室の有無、設置場所等の違いに応じて選択できるようにします。

- 子どもの発達段階・活動に合わせた多様なスペース
- ・普通教室ゾーンは、吹抜けを中心とした一室的なゾーンを形成することで、3-2-2-2型や4-3-2型等の教育課程のクラススターに対応できます。

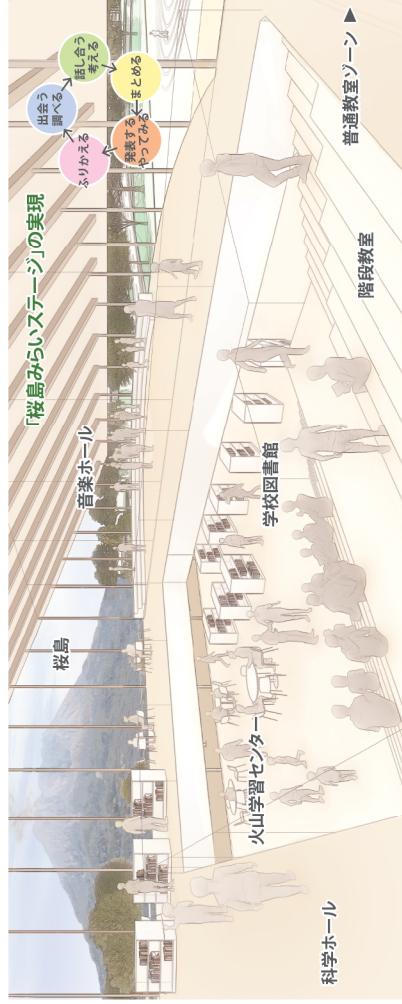
- ・学校生活の拠点となる普通教室（CR・オーブンスペース（OS））は、より柔軟な設えを計画できる構成とします。教室の有無、設置場所等の違いに応じて選択できるようにします。



#### 想定延べ面積／概算工事費

想定延床面積	8,100 m <sup>2</sup>
概算工事費	33億 0000 万円
本体工事	31億 4500 万円
外構工事	1億 3900 万円
解体工事	1600 万円

【全国初の3階建て木造学校の実績】



### 4 構造物を利用してローコスト木造を工事予算内で実現

#### ○ 環境と共生する外構計画

#### ○ 特別教室もある体育室

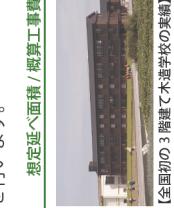
- ・桜島と植物は、桜島特有の植生を学ぶ生きた教材です。
- ・植生内に運動施設はできる限り利用して敷地内外のセキユリテイに利用し、景観に配慮して外構計画とします。

- ・木造を実現するため、豊富な木造施設の実績に基づき、適正なスパンや階高の構造モジュールを採用等の比較検討を行い、ローコストで実現する提案を行います。
- ・『鹿児島県木造公共施設整備事業』による補助金を利用して、構造材と内装材に具材を使用します。



- ・授業や校内外スポーツ大会等の利用が可能な木造施設の実績に基づき、適正なスパンや階高の構造モジュールを採用等の比較検討を行い、ローコストで実現する提案を行います。
- ・『鹿児島県木造公共施設整備事業』による補助金を利用して、構造材と内装材に具材を使用します。

#### 想定延べ面積／概算工事費



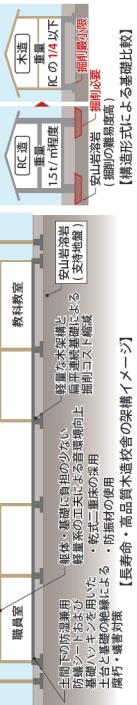
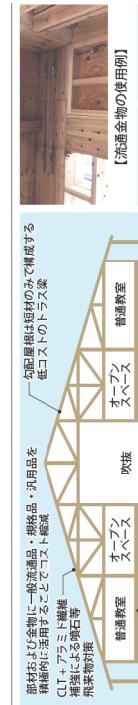
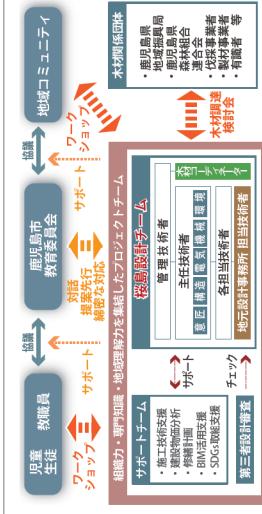
## 持続可能な地域づくりの基盤としてのひと・地域・環境にやさしい木造義務教育学校を実現します。

### 1 地域材を使用した大規模木造校舎実現のため木材料利用・調達モデルの構築

構造計画/構造材の木質化の課題解決 / 構造種別

- 構造適所のベストミックス木造校舎
  - ・木造耐火建築物とし、建築基準法に基づいた3,000㎡区画をRC造のコア等の「壁等」で形成します。より強固で防火上効果的な構造形式で大規模木造校舎を実現します。
  - ・構造部材は「被覆型」と「燃え代型」を併用し分け、一般流通材と中面断面集成材を用いるハイブリッド手法とすることで、木材調達量と転手コストを縮減します。

- 確実な木材調達ネットワークを構築
  - ・確実な木材調達のための、行政、木材調達業者、設計者等による「木材調達検討会」立ち上げ、木材調査等を行います。
  - ・検討会には木材流通の横断的な意見を有した「木材コーディネーター」を参画させ、関係者同士の調整を行います。
  - ・丸太の歩留まりを高めることとともに、木材価値を高めります。丸太中心部でぶち合わせた木取りを行います。丸太中心部でぶち合わせ、外周部で二次部材や仕上材、学校家具材を取り、木材調達にかかる手間とコストの抑制を行います。

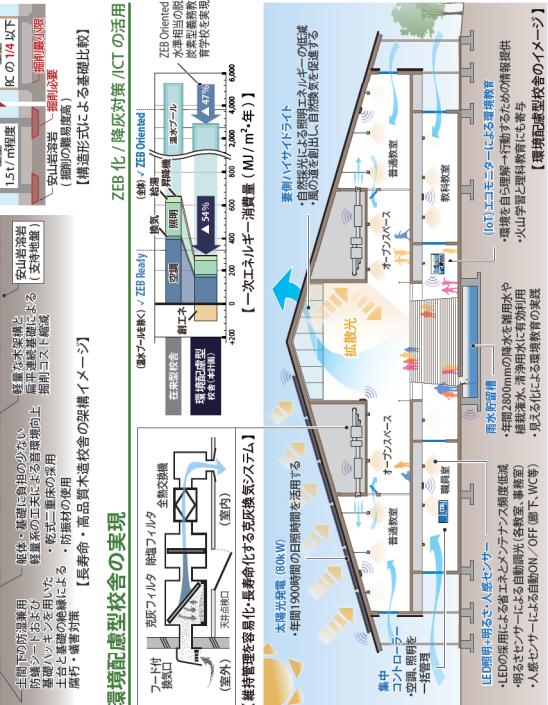
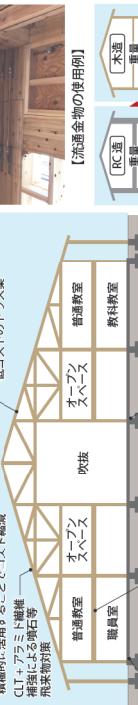
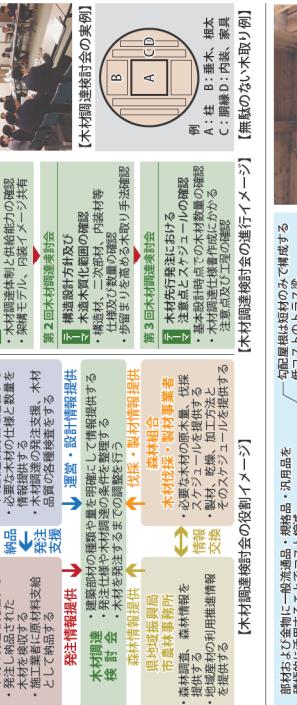


### 2 次世代の地球環境・地域の負担にならない環境配慮型校舎の実現

ZEB化/降灰対策/ICTの活用

- ZEB化に向けた取組
  - ・広大な空間による省エネと、LED照明や個別空調などの高効率設備により、温水プールを除いた校舎における一次エネルギー消費量を54%削減し、ZEB Readyを実現します。

- 降灰を踏まえた維持管理しやすい空調
  - ・室外機による熱交換効率の低下を防ぎます。全熱交換機には除湿橿フィルタと、傾斜設置の克灰フィルタを設け、フィルタの交換頻度の低減により機器の長寿命化を図ります。
  - ・ICTによる新たな学習環境の提供
    - ・校内どのどこでもネット環境に接続でき、教室以外でも学習が可能です。
    - ・例えば火山をテーマとして、国内外の活火山を有した地域の学校と接続し、情報交換ソールとして活用も可能です。

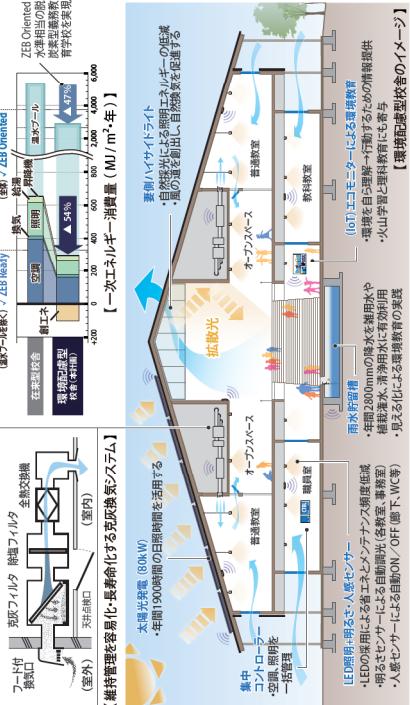
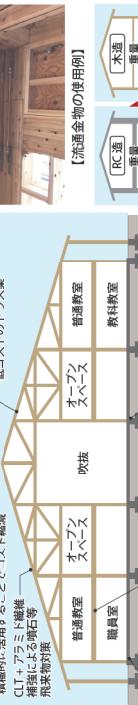
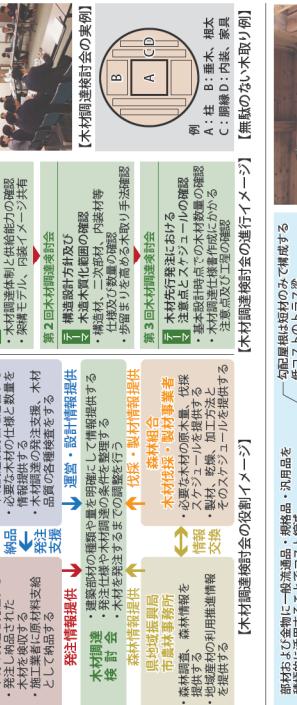


### 3 実績に基づく専門知識と地域理解力を集結した万全の取組体制

工程管理/取組体制/意見集約/独自提案

- 学校・木造・地域を熟知した設計チーム
  - ・小中一貫校や鹿児島市内の公共施設の大規模工事監理実績のある学校建築のスケヤリストを配置します。
  - ・全国初の3階造建築木造校舎をはじめ多数の木造校舎建設や、自然公園管理実績を有する組織設計事務所との経験、専門知識を集結した万全の体制で業務を遂行します。
  - ・地元設計事務所と共に税内へのサテライドオフィス設置を検討し、桜島設計チームとして情報収集と迅速な応答を実現します。

- 意見集約を集中的に使うための取組体制
  - ・基本設計の初期において、子どもたちや教職員、地域の方々からの意見集約を集め、十分な時間と密度でワークショップ(以下WS)等により意見集約を行って、確実な合意形成プロセスを経た後学校における確実な合意形成とプロトローディングにより、手元のない紙面を実現します。
  - ・経験的なWSによる地域活動の場所づくり
    - ・WSは多世代、多様な参加者を募るところに、明るいテマーや目標を設定し、市民開放スペースで、明るい環境で活動を楽しむことができます。
    - ・WSを継続開催します。学校づくりを契機として、地域の連携や親睦などを深め、地域の活性化へとつなげます。



### 4 提案書③【業務の進め方】

合規VSテーマ

